

1 会議名	予算常任委員会			
2 日時	平成27年3月25日 (水)			
	開 会		午後6時22分	
	閉 会		午後6時45分	
3 場 所	第2・3委員会室			
4 出席議員 (14名)	< 委員長 > 伊藤 隆 信	< 副委員長 > 塚本 秋 雄	宮 川 隆	井 上 博 彦
	関 戸 八 郎	須 藤 智 子	梅 村 均	松 浦 正 隆
	黒 川 武	横 江 英 樹	梶 谷 規 子	木 村 冬 樹
	相 原 俊 一	加 納 の り 子		
5 欠席議員				
6 説明員 (9名)	総 務 部 長	市 民 部 長	福 祉 部 長 兼 福 祉 事 務 所 長	建 設 部 長
	消 防 長	教 育 部 長	企 画 財 政 課 長 他 1 名	児 童 家 庭 課 長

議案第41号 平成26年度岩倉市一般会計補正予算（第8号）

当局の説明を省略し、直ちに質疑に入る。

（歳出）

款2 総務費

問 人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略策定支援業務委託料について、説明資料によると結婚・出産に係るアンケート指針という項目がある。今後の人口減少に対し、対象者がどのように考えているのか、聞きたいがとてもデリケートな問題であると思うため、項目の設定等については十分女性の人の意見も聞きながら行ってはどうか思うが、どのように考えているのか。

答 アンケートについてはデリケートな問題であり、必ずしも結婚が正しいとか、人としてしなければならない、子どもを産み育てないといけないというのは個人の選択であると思います。それを踏まえて、アンケートの項目は設定したいと思います。また、これは全国で行うよう要請がされているので作らないところがないと思います。人口ビジョンのアンケートについては国からのマニュアルが示されていますので、配慮した項目設定にしたいと思います。

問 空き家等調査業務委託料で、全国的にも空き家対策が今後も進むと思うが、私は空き家対策の方向性は二つしかないと考えている。一つは空き家の撤去の促進をどう進めるかということ。二つ目は利活用をどう進めていくかということである。一つ目の言った空き家の撤去の促進についても、強制的にやるのか、自主的にやるのかなど選択肢は出ると思う。しかし、大事なことは空き家の所有者の意向を十分に聞くということである。空き家は空き家として放置しておく理由があると思う。例えば、建て替えをしたいが、建築基準法以前の適格建築物だと建て替えることも無理で、更地にすると固定資産税が上がるという悩ましい問題がある。そういう点から問題、課題を抽出し、それに対する施策の検討まで今回

行われると思うが、さまざまなパターンがあるので、パターンに応じた活用策を聞くだけではなく、提案することも大切である。限られた予算の中でどのようなことができるのか分からないが、どのように考えているのか。

答 空き家対策については、今まで政策創生研究プロジェクトで10回以上の会議を重ねて、現場調査やアンケート、不動産業者訪問等を実施して、政策提案があったものを交付金の対象として実施するものです。プロジェクトの提案については、空き家バンクと住宅建て替えのための空き家除却費用助成事業などの事業を視野に入れて適正管理条例の制定などさまざまな政策提案がされていますが、今回の委託については空き家の調査をして、議員から提案のあったことも視野に入れて1年間積極的に取り組みたいと思います。

問 検討委員会の識見者はどのような人を予定しているのか。また、業務の委託先はどこを検討しているのか。

答 現在は、識見者は2名にお願いしようと思っていますが、未定となっています。また、委託業者については、プロポーザル方式で業者選定を行う予定です。

款3 民生費

問 福祉・子育て支援商品券支給事業について、プレミアム商品券との絡みもあるが、配分の根拠はなにか。

答 今回、国から示されている交付金の使い道で地域住民生活等緊急支援のための交付金でメニュー例が示されています。その中には、プレミアム商品券を筆頭に、低所得者等向けサービス購入券や多子世帯に対しての支援として同じような商品券の配布がメニュー例として出ています。こうしたことから、今回プレミアム商品券の発行に当たりまして、低所得向けや子育て世帯向けを同時に実施します。

問 対象者の数があつて、そこに2,000円など金額を決め、割り当てて総額を出す。残った分が、プレミアム商品券にということによいか。

答 プレミアム商品券の発行を1億8,000万とします。過去に実施していた時は5,000万円でしたが、その3倍の1億5,000万で発行して、プレミアム分を20%、3,000万円は市で負担し、3,000万円と委託にかかる事務費550万円となっています。福祉、子育て世帯向けは一人当たり2,000円で、現在見込まれる1万3,500人なので、2,700万円となり、それにかかる事務費を計上しながら積算しています。

問 福祉・子育て支援商品券は、市内の店でしか使えないのか。

答 基本的には、プレミアム商品券と福祉・子育て支援商品券は同じ商店を対象にしています。

問 福祉・子育て支援商品券について、一人2,000円であるので、あまり可能性はないかもしれないが、商品券を支給された人が金券ショップに持ち込んで、現金に換えることがあるかもしれない。商品よりは現金がほしい人はやるかもしれない。そのときの対応はどうするのか。

答 議員の指摘のとおり、そのような処理方法もあるかもしれませんが。市内に金券ショップはありますが、それをどのように防止するかについてはできるかできないかも含めて検討します。

問 放課後子ども総合プラン検討事業について、放課後子ども教室は全ての児童が対象に行っているが、放課後児童クラブは申請した子どもが対象で、有料で行っているのが現状であると思う。それを総合的に検討することだが、委員長はどのような人を想定しているのか。また、業務の委託先はどのようなところを検討しているのか。

答 この事業につきましては、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に行えるような方策を検討していくものです。現在、学童の方は月

曜日から土曜日まで、放課後の方は土曜日の午前中だけとなっています。両親が共働きではない家庭の子どもの安全な居場所づくりにつながると考えています。学校施設というのも念頭にあり、そういう部分につきましては、十分な検討が必要であるので、検討する場としても委員会を設置して検討を進めたいと思います。委員長については識見者を予定していますが、まだ決めていません。また、業務の委託先は4月に入ってからプロポーザルにより業者決定をしたいと思います。

款6 商工費

質疑なし。

款8 消防費

問 消防団出身者としての思いからすると装備のより一層の充実は大変ありがたい。これは、もともと市でやるべきことであると思うが、地域住民生活支援のための交付金で使って問題はないのか。

答 この消防の事業については、交付金を申請する段階の計画では地震対策事業のところで位置づけています。先ほどにもありました地震対策の調査を行うことと併せて、消防団の装備を充実させることを目的とする経費として計上しています。調査業務委託、調査報告会、消防団の研修も行い、消防団の装備も充実させていくと実施計画にも定めていますので、地域活性化地域住民生活等緊急支援交付金のメニューとして計上しています。

問 復興予算でばらまきの使い方の問題のように、後で問題にはならないということでしょうか。

答 今回の交付金はハードではなく、ソフトを重視なので、総務省とも何度もやりとりをし、問題はないとのことでした。

問 防塵マスクが全ての団員に行き渡るということだが、来年、再来年以降に団員が変わった時にマスクは使い回すのか。

答 そのようなことはありません。消耗品の中で、団員の交代部分は補充していく予定です。

款 9 教育費

質疑なし。

(歳入)

質疑なし。

第 2 表 繰越明許費補正

質疑なし。

質疑を終結し、討論に入る。

討論はなく、採決に入る。

採決の結果、議案第 4 1 号は、全員賛成で原案のとおり可決すべきものと決した。